

科目名	異文化コミュニケーション論	科目分類	■専門科目群 □総合科目群		
			国際観光学科	□必修 ■選択	
			学科	□必修 ■選択	
英文表記	Cross-cultural Communication	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年		
		開講期間	□前期 □後期 □通年 □集中		
ふりがな	はんだ さちこ	実務家教員担当科目		修得単位	2単位
担当者名	半田 幸子	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	グローバル社会への理解を深め、コミュニケーション				
到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. コミュニケーションの特徴や性質などコミュニケーションに関する基礎的な知識 2. 異文化間におけるコミュニケーションの課題を認識し、理論的に理解する力 3. 異文化コミュニケーションに関して理論として学んだことを実践の場で応用する力				
授業概要	教科書に基づき、異文化コミュニケーションの概念、理論、事例を学びます。と同時に、異文化を理解することの難しさ、問題点などをより深く理解するために、適宜、映画鑑賞を通して擬似的に体験し、異なる文化的背景を持った他者との関わり方について思考を巡らし、理解を深めます。				
授業計画（以下の計画は、授業の進捗状況および受講者の学習状況によっては変更することがあります。）					
第1回	ガイダンス（授業概要説明等）				
第2回	第5章 言語コミュニケーション 1. 言語の構造 2. 言語メッセージの意味と用法				
第3回	第5章 言語コミュニケーション 3. コミュニケーション・スタイル 4. 文化差・個人差・コンテキストの諸要因				
第4回	第6章 非言語コミュニケーション 1. 非言語コミュニケーションの特徴 2. 非言語メッセージの種類 2-1 周辺言語 2-2 身体的特徴				
第5回	第6章 非言語コミュニケーション 2. 非言語メッセージの種類 2-3 身体的動作 2-4 時間と空間 3. 非言語メッセージとコミュニケーションスタイル				
第6回	映画鑑賞 ①『マイ・ビッグ・ファット・ウェディング』（My Big Fat Greek Wedding, 2002、アメリカ）＜前半＞				
第7回	映画鑑賞 ①『マイ・ビッグ・ファット・ウェディング』（My Big Fat Greek Wedding, 2002、アメリカ）＜後半＞				
第8回	第7章 カルチャーショックと適応プロセス 1. カルチャーショックの特徴 2. 異文化適応曲線 3. 異文化適応に影響を及ぼす要因				
第9回	第7章 カルチャーショックと適応プロセス 4. 「成長」過程としての異文化適応 5. 異文化経験とアイデンティティの変化				
第10回	映画鑑賞 ②『名もなきアフリカの地で』（Nirgendwo in Afrika, 2001、ドイツ）、＜前半＞				
第11回	映画鑑賞 ②『名もなきアフリカの地で』（Nirgendwo in Afrika, 2001、ドイツ）、＜後半＞				
第12回	第8章 対人コミュニケーション 1. 異文化の友人 2. 異文化の恋人との関係構築				
第13回	第8章 対人コミュニケーション 3. 「思い込み」異文化コミュニケーション				
第14回	第9章 異文化コミュニケーションの教育・訓練 1. 異文化コミュニケーション能力 2. 異文化コミュニケーションの教育 3. 異文化コミュニケーションの訓練 4. 教育と訓練の背景理論とファシリテーターの役割 5. 異文化コミュニケーションの条件				
第15回	まとめ				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	1. 事前に教科書を読んで理解し、不明点を洗い出しておく。（週 1.5 時間程度） 2. 授業後に、該当箇所を改めて読み直してノートにまとめ、理解を深める。（週 1.5 時間程度） 3. 不明な箇所は、教員に聞いたり、参考文献を読んだりすることで、不明を解消する。（週 1 時間程度）				
履修条件 受講のルール	＜受講上のルール＞ ・授業後の復習の習慣を身につけてください。 ・授業中の私語など、周囲の迷惑になる行為は謹んでください。				

テキスト	石井敏、久米照元、長谷川典子、桜木俊行、石黒武人『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション——多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣、2013 年。
参考文献・資料	青木保『異文化理解』岩波書店（岩波新書）、2001 年。 原沢伊都夫『異文化理解入門』研究社、2013 年。 伊佐雅子監修『多文化社会と異文化コミュニケーション』（改訂新版）、三修社、2007 年。 ほか、適宜、授業内で紹介します。
成績評価の方法	【授業への取り組み（45%）、毎回のコメントシート（5%）、定期試験（50%）】 上記評価項目をもとにして総合的に判断します。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・授業の理解、および予習復習が十分であることを確認するため、学期ごとに3回の小テストを行います。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	毎週月曜日・水曜日 15:00～ ※これ以外の時間・曜日は、事前に予約をとってください。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	「異文化コミュニケーション」の授業は、前期に開講される「異文化理解」の展開として位置付けています。前期開講の「異文化理解」では、基礎概念に焦点を当てます。基礎概念の理解は重要ですので、「異文化理解」も合わせて受講することをお勧めします。 異文化コミュニケーションは、外国との関わりに限りません。異なる文化は、国内にいても、秋田県内、秋田市内にいても日常的に遭遇しているものです。まずは、「異なる文化」という概念についてしっかり学び、この授業で、さらにコミュニケーションについての理解を深めましょう。